

## IM ケアンズ参戦記 (2014/06/08)

喜田文雄 昌子

レース直前になり、コースが大きく変更されました。特にスイム会場が、ケアンズより約25km離れたパームコーブという別荘地に変わり、それにしたがって、バイクトランジション等も・・・

去年は、ケアンズのホテル街前、クルーザーが停泊する港の桟橋がスイム会場で、スタートギリギリまで、部屋でくつろげたのに、大きな誤算です。



前々日にケアンズで、バイク預託。

前日にパームコーブで、セッティングと日本語説明会のため、バスで移動とやる事に時間がかかり、のんびりリゾートすることができませんでした。

大会前日の日本語説明会は、スイム会場のパームコーブのリゾートホテルでありました。海を見た選手から質問が出て…「スイム中止の場合はデュアスロンに変更されますか？」司会をしている Jack 福島さんが、実行委員長のオーストラリア人に通訳したところ…「アイアンマンはデュアスロンではありません。スイムキャンセルはありません」

多分、海を見た人たちからでしょう…、驚きと不安のため息が聞こえてきました。

説明会の後、その海を見に行ったところ…

怒濤の波が砕けちり、砂浜の看板には「クロコダイル注意」と書いてあり、強風を利用してウインドサーフィンをやっております。



オレには無理かな～、これは・・・と、もちろんは青い顔で海を見つめています。。。  
昌子も「私も無理かもしれん…」と弱気な発言。ますます不安になります。

ないない、こんな中止や、と言ってもそれは日本人的思考で、今年3月のIMメルボルンでもこんな海やったが、スイムはあったらしい、という情報が入ってきました。  
さすが、トライアスロン王国オーストラリア。  
オーストラリアは、人口3000万人ながら、IM関係のレースが、12レースあります。

泳げるから申し込んだ、リスクは付きものやし、あとは何があっても自己責任ですよ、と言う訳でしょうね。国民性の違いはあると思いますが、日本の大会は過保護の様に思えてきました。

明朝は、いくらか波が穏やかになるかもしれませんが、というジャックの言葉に願いを込め、トボトボ帰りました。しかし、行けと言われたら行かんとアイアンマンになれんわな～、根性なしの臆病者にはなりたくないし、しかし怖いでえ～。

ブルーな気分をプラス思考に考えるのは、なるようになりやがれ～という開き直りと、戦闘モードを高める作戦会議をするのが一番。

部屋のバスタブに熱いお湯をはり、愛飲度を上げ、17時オープンのホテルのエクゼクティブラウンジで会議開始です。しかし、会議場のシステムは、我が家には非常に危険な飲み放題食べ放題。しかも無料。だから、つい気が緩み、しかも闘志が湧いてしまい、会議が長引いてしまいました。ラストオーダーが20時で幸いでした。気がつけば、オーストラリアでは有名なVBビール8本、ケアンズのあるクイーンズランド州は、シロクマくんのマークが入ったラム酒が有名だ、ということで、ラムのソーダ割を4杯・・・。

おかげでやったるで～、と元気になりました。元気ではなく、酔っぱらったのかもしれませんが。

大会当日は、まだ辺りが真っ暗な早朝5時前に、土砂降りの雨の中、パームコーブまでバスで移動。今回は、異常気象のようで、乾季でベストシーズンのはずの天気がよくありません。



スタート前の海はちょっとましになっていました。前日のうねりを見ているから、恐怖心も少しはましです。

スタートして、ビールの泡攻撃を何とかしのぎながら泳ぎます。不規則な息継ぎとなり、また、泡を飲んだり、心臓はバクバク、過呼吸1歩手前。。うねりは、波のスロープのようです。巻き込んだ波が頭を攻撃してきます。息が苦しい～。スイマー達は、斜面にへばりついて下から上へと這い上がってきます。私は、裾から脱出できずにその場でもがきだけです。遅いくせにいつも先頭を切って飛び込むから、後から、また後から、私を追い越してアタックしていきます。まるで、生まれたての子ガメが、波にもまれながら沖を目指しているようです。みんな、ようやるなあ～、関心している場合でもないのです。このまま誰もいなくなったら・・・、と恐怖心がよぎります。周りにはレスキューは見当たりませんでした。引き返すにも、後ろから押し寄せる選手にぶつかりそうで、退路も阻まれています。気を取り直して、もがき続けるしかないなあ・・・。もがき続けるうちに、少しずつ、前進していたようです。

最初のIMブイが見えてきました。

ノドがカラカラな時、生ビールのサーバーの蛇口を見た時の気持ちです。これで行ける。やるしかない。泳ぎきったるでえ～。

3.8kmの間に、水先案内人のブイは、たったの8個。その間は、何にもなし。コースロープなんて、気の利いたものも無し。まっすぐ泳げない選手が悪い。レスキューも、日本に比べて、非常に少なく感じました。

ハードルは高い程、やる気はあおられ、危険は自信につながり、次へのエネルギーとなるのかもしれないね。

バイクも雨。きれいな景色も見れず、残念・・・。震えながらゴールを目指しました。路側帯の突起物を踏んでしまい、レースでは、初めてのパンク。

何とかフィニッシュし、ランスタート。涼しいから、速い選手は、ガンガン私を抜き去って行きます。オレは暑いほうがええなあ～、どっちもタイムに差がないから。

今年も、エイドステーションはIMらしからぬ程、充実していました。

また、ランコース周辺では、観光客から、ご家族からの大声援が苦しいランを後押ししてくれ、完走をプレゼントしてくれました。

素晴らしい大会でした。

そして、毎年目標。今年も聞く事ができました。

「フウ、ミイ、オ～。フローム ジャパン。You are an Ironman.」

ホテルに引き返し、ロビーに入ったとたん、従業員たち、ソファでくつろいでいる観光客たちから、見ず知らず、濡れそぼり、泥まみれの私たちに、「Congratulation!!!」と祝福とねぎらいの言葉が飛んできました。

何と友好的な!!!達成感が頭をもたげます。

ちなみにハワイは・・・、といいますと、男子60代の優勝タイムは、長崎五島の時代は12時間台。去年のケアンズは11時間台、そして今年は、10時間27分!!!

開いた口が塞がりません。。。

長生きしたら・・・、なんて考えも甘くなりつつあるようです。

文雄 S 1:23:27 B 6:19:09 R 5:25:48 Total 13:20:00

昌子 S 1:13:17 B 7:05:17 R 4:59:08 Total 13:31:58

